

各支部長 様
各専門部長 様

千葉県教職員組合 中央執行委員長 渡邊 郁哉

～事務職員部県教委交渉～

共同実施統括主任の役割や重要性を訴え、 「6級の職の新設」を強く要望！

千教組事務職員部は11月17日、櫻井書記長、中村生活部長、常任委員、各支部事務職員部長の参加のもと、要求書34項目の中から、15の重点項目をとりあげ、各担当課から回答を受けました。

回答に対し、香取支部・印旛支部・君津支部・山武支部・長生支部・安房支部・市原市支部から学校現場の実態を訴えるとともに、具体的な再質問、要望を行いました。主な回答内容は、以下のとおりです。

- ① 新たな級の 신설については、これまでの共同実施の研究成果をふまえ、関係機関とともに慎重に検討していく。
- ② 共同実施における統括主任の事務長について、共同実施にかかる職責をもって新たな職級とすることを想定している。共同実施における統括主任の役割や、実績を共有していきたい。
- ③ 共同実施の加配を措置できるよう、国に必要な定数を要望していきたい。
- ④ 時間外勤務手当の配当時期については可能な限り早めることができるよう検討していく。
- ⑤ 評価結果の事務職員への情報提供について、人事評価研修会に加え、市町村教委あての文書等で周知していく。

交渉の終わりに櫻井書記長が「事務職員は学校の要である。教員が全力で子どもと向き合うことができるのは、限られた財政のなかで活動費用をやりくりし、学校全体を支えてくれているからである。近年の学校の変化への対応は厳しい。今まで以上に多くの業務を抱えていることがはっきりしている。業務が増えても、それに見合う人の配置、処遇の対応はなされていない。指示は文書のみで、研修もない。事務職員はそれを個人の時間と、事務職員どうしで補っている。子ども・学校をよりよくするため対応・政策は出されている。しかし、それを運用する職員へのフォロー・対応を政策を出した機関は整えていただけているのか。今こそ、6級の職の新設が必要ではないのか。県独自で人を増やしてもらえないのか。代替職員を何とかしていただけないのか。千教組事務職員部は、要求書の作成にあたり、しっかりと調査・研究をし、組合員の声を真摯に聞き取り、つくり上げている。また、現在の課題を把握し共有するため、独自で学習会を何度も開いている。事務職員部のなかでも学びを止めず、前進だけを考えている。今回、重点として挙げた職務の明確化、業務に見合った報酬・待遇、適正な配置、そして、事務職員の力量向上について要求内容が改善されることで職員のモチベーションもあがり、業務の効率化により、さらに、学校が円滑にすすむことを確信している。今回の交渉で要望した内容については、一つひとつ検討し、学校事務職員の力が十分発揮されるよう、また、誇りと希望をもって職務に励むことができるよう、前進ある改善を改めてお願いする」とあいさつしました。

また、県教委より「日頃から千葉県教育の推進にご尽力いただき、厚く御礼申しあげたい。本県の財政は厳しい状況ではあるが、本県のさらなる発展・充実のため、一層の努力を続けていきたいと考えている」とあいさつを受けました。

* 県教委の交渉内容については、後日、闘争速報 21号②にてお知らせいたします。